

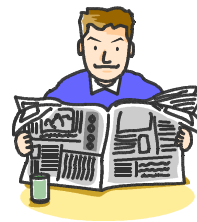
認識を広げ深める Ⅱ 新聞コラム記事を使って Ⅱ

新聞各紙のエースが世の中の出来事を批評し、読者の意識を啓蒙してくれる新聞コラム記事。三方中学校ではその記事を毎週末に2紙分家庭学習として読みます。読んだ後その気と時間がある人は、感じたり考えたりしたことを百四十〜百六十字程度に二段落構成でまとめます。

コラム記事を読むだけでも、筆者の認識に自身の認識が重なり広がります。更にそこから自身の体験等に寄せて感じたことや考えたことを表現すると、自身の認識が深まります。

2023年 2月20日 天声人語から

「はだしのゲン」を読む



漫画『はだしのゲン』をきのう通読した。小学生のころは怖くて、途中までしか読めなかった。今回は読了したが正直言って辛(つら)かった。ずっと目を通すなど、とてもできない。ページをめくる手が幾度もとまった。涙がでた▼広島市立の小学校で使われる平和教育の教材から『はだしのゲン』が外されることになったという。市教委は漫画の一部を使うのでは「被爆の実相に迫りにくい」からだ、としている。極めて残念である▼「被爆の実相」とは何か。作者の故中沢啓治さんは「主人公の少年ゲンは、ぼく自身です」と言っていた。実際に目の当たりにした戦争がいかに非道なものだったか。中沢さんが強い怒りを込めて描いた漫画が実相に迫っていないなどと誰が思うだろう▼戦中戦後の混乱した世情を色濃く表す作品だけに、いまの子どもに分かりにくい表現が含まれるとの指摘もあるが、それも史実である。きれいな戦争がないように、教えやすい戦争もありえない▼「はだしのゲン」は10年前松江市の小中学校の図書館で自由に読めなくなった。「表現が過激だ」との理由だったが、多くの人が反発し、撤回された。いまやゲンが被爆の伝承の象徴的な存在にあることも忘れてほしい▼G7広島サミットに向け、岸田首相は「被爆の実相に対する正確な認識を世界に広げていく」と語っている。その言葉が上滑り

しないように切に願う。歴史の実相とは単なる記録ではなく、人の思いが重なる記憶でもあるのだから。

ねらい

- 1 ある事柄に対して筆者はどう考えているか 読み取る 理解する
- 2 筆者の考えについて自分自身はどうなのか 考える・表現する

コラム記事 感想・意見

令和4年度 1年生 感想・意見(例)

平和教育の教材から「はだしのゲン」が外されたらしい。

市の教育委員会は、被爆の実相に迫りにくいからだとしているようだ。作者の中沢さんが強い怒りを込めて描いた漫画が実相に迫っていないなど誰が思うのか。僕は「はだしのゲン」を読んだことがある。あの戦争がいかに非道なものなのか、自分の目と心で確かめられるのが「はだしのゲン」だ。

出来事に対するコラムの筆者の考え(批評)に同意し(のっかり)ながら、「あの戦争がいかに非道なものか自分の目と心で確かめられる」のが「はだしのゲン」であると述べている。筆者の批評をベースに、自分の読書体験に基づいた実感をともなった自身の批評が展開されている。

記事で取り上げられている出来事を端的に述べ投げかけることで、読みにこのあとの展開を期待させている。